事例No.	676
公表年度	H29
団体の属性	町村
団体名	愛媛県砥部町

事例区分	公会計

タグ	・セグメント分析 ・適切な資産管理 ・情報公開

事例種類	セグメント分析

事例内容・タイトル

発生主義によるコストの比較

出典

地方公会計の活用の促進に関する研究会

○ 事例名等

事例名	発生主義によるコストの比較
団体名	愛媛県砥部町

1. 取組の背景、検討を開始した契機・導入過程

(1)取組の背景
公会計への理解が進み、施設の設備を更新するにあたり、これまではイニシャルコスト(導入に係る経費)のみを比較して予算査定を行っていたが、ライフサイクルコストを比較し、中長期的な財政支出を検討して決定する環境となった。

(2)検討を開始した契機・導入過程
庁舎の大規模改修をすることになり、企画財政課ではこれまではイニシャルコストしか見ていなかったが、ライフサイクルコストも含め、原状回復した際のコストを押さえるという方針があった。
蛍光灯とLEDを比較したところ、初期費用は蛍光灯が100万円、蛍光灯型LEDライトは500万円となり蛍光灯が400万円ほど安いが、耐用年数を考慮すると蛍光灯、LEDともに年間50万円のコストとなった。電球のコストそのものに大きな差はない結果となったが、高所での電球取り換えが必要な場合は高額な費用がかかるため、2年に1回取り換えるよりも10年に1回の交換で済む方が大きなコスト削減となる。また、LEDの方が電気代の削減を2割程度削減できることから、LEDを選択する方が中長期的な総コストを削減できる結果となった。

	初期費用	初期費用／耐用年数
蛍光灯	100万円	50万円
蛍光灯型LEDライト	500万円	50万円

LED化した場合、高所での交換が必要な場合のコストを削減ができ、また、電気代の削減も2割程度期待できる。

中長期的にはLEDライトの方が安くなるため、LEDを選択

※耐用年数について、通常の蛍光灯は2年、LEDライトは10年と仮定。

2. 効果

導入から中長期的に費用対効果を考えたことにより、後年度にわたり、負担のない設備投資が可能となった。

3. 他の自治体の参考となる点、今後の課題等

(1)他の自治体の参考となると考えられる点
初期費用だけではなく、耐用年数から、より費用対効果の高い設備を選択すること。

(2)今後の課題等
今回はLEDだったが、設備の更新の際に物品をリースにするのか購入するのか、様々な場面で応用していけるかどうかが今後の課題。